

施設名	旧讃岐鉄道岩屋架道橋								
所在地	香川県 宇多津町								
管理者等	宇多津町								
施設種類・分野	橋	鉄道							
施設概要 (明治期との 関連含む)	<p>讃岐鉄道は、明治22年(1889年)に多度津を基点に丸亀・琴平を結んで開業した四国最初の本格的な鉄道路線である。明治30年(1897年)には路線が丸亀から高松(西浜)へと延伸。その後明治39年(1906年)に国有化され、国有鉄道讃岐線(のち予讃線)と呼称された。宇多津町内には、昭和63年(1988年)の瀬戸大橋線開業に伴う路線の移転による廃線遺構が残っており、その中でも岩屋架道橋はもともとも保存状態のよい構造的にも特筆される事例である。</p> <p>鉄道路線と里道、用水路を立体交差させるためにアーチ橋として構築、アーチ部を含めすべて花崗岩の切石を使用していることが特徴。アーチは半円アーチとし、壁面は布積み、端の両側には谷積みの翼壁を設け、アーチ天端には、楔形の要石(キーストーン)をはめ込んでいる。町民からはアーチ形であるため、“めがね”“石のトンネル”と呼ばれ親しまれてきた。</p>								
築造時期	明治中期	時期詳細	明治30年						
関連人物	-								
関連企業	-								
トピックス (特徴的エピソード)	-								
歴史的な遺産等の指定の有無等	○	選奨土木遺産(土木学会)	-	文化財(文化庁)	登録有形文化財(建造物)	近代化産業遺産(経産省)	-	世界遺産(ユネスコ)	-
その他 (関連資料、文献)	・続・宇多津町誌(香川県綾歌郡宇多津町発行 平成22年10月)								
管理者等のHP(URL等)	-								